

# 蠶蛹の氣門に於ける寄生蠶蛆の分布

山口 定次郎

S. YAMAGUCHI: — Distribution of the parasitic maggots in the spiracles of silkworm pupa.

蠶蛆は蛹の氣門の何れに最も多く寄生するかに就き少しく調査したので記載する。

材料蠶蛹は國蠶支14號雌雄。調査個體 356 中蠶蛆被害蛹 94、寄生蠶蛆數 108、従つて被害歩合は、

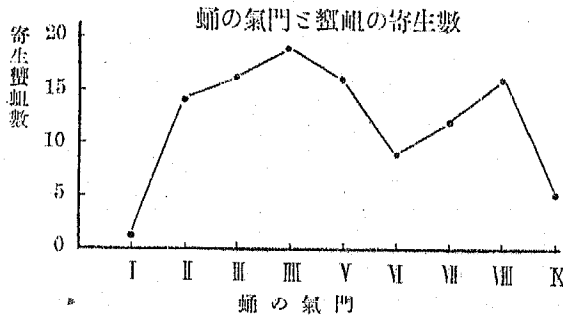
$$\frac{\text{被害蛹數}}{\text{調査個體數}} = 26.4\% \quad \frac{\text{蠶蛆數}}{\text{調査個體數}} = 30.3\%$$

寄生歩合の相當大なるものに就ての調査である。觀察は化蛹後 5 日目迄の前蛹及蛹を調査し氣門部の黒化により寄生の有無を判斷し、更に全部を解剖して寄生を確かめた。

斯くして得た觀察結果は次表の通りである。

蛹の氣門	I	II	III	III	V	VI	VII	VIII	K
寄生蠶蛆數	1	14	16	19	16	9	12	16	5

之を曲線に示す次の如く、即ち蛹の第 4 氣門最多で、3.5.8 何れも之に次ぐ、然し第 1 氣門への寄生は僅かに 1 個體であつた。尤も蛹では第 1 氣門及第 2 氣門の多くは翅部に覆はれてゐる。



尙被害蛹中には 1 個體内に 2 箇の蠶蛆の寄生を受けたもの 14 個體あつたが、その寄生氣門は次の如くである。

又即ち 80% 近邊の被害歩合の時は、前記 1 個體に 2 箇の蠶蛆を寄生せしめる場合が 14 箇の多きに達する事がわかつた。

尙之によれば第 4 及 8 の氣門は寄生に最も好都合の氣門であるを考へられる。

尙又體の左右に寄生との關係は左 53、右 55 で殆ど差はない。

以上觀察の事實に就ての記載にさだめる。

1 個體内蠶蛆 2 箇寄生せる時の氣門	寄生蛹數
2. 4	1
2. 7	2
2. 8	1
3. 6	3
4. 8	2
5. 5	1
5. 8	1
6. 8	1
7. 8	1
8. 9	1